

野見湾プランクトン調査結果のお知らせ

平成25年7月31日午前9時から野見湾の調査を実施しましたので、結果をお知らせします。

馬の背周辺でうすい着色が見られました。検鏡の結果、着色の原因は基本的には魚類等に対して無害のヘテロカプサ・ランセオラータでしたが、湾内では有害種のヘテロシグマ・アカシオ、カレニア・ミキモトイ、シャットネラ属等も確認されておりますので、注意してください。

海や養殖魚の状態に変化や不安を感じた時は、中央漁業指導所か水産試験場まで連絡してください。

【注意点】

- プランクトンは鉛直運動するため、午前中潮色が悪くても、午後から着色する危険性があります。
- プランクトンは潮流や風の影響で移動する危険性があります。

地点	水深	有害種				基本的には無害
		ヘテロシグマ・アカシオ	カレニア・ミキモトイ	シャットネラ属	ミリオネクターブラ	ヘテロカプサ・ランセオラータ
湾奥ブイ	0m	40	0	0	0	40
	2m	10	1	0	0	50
	5m	130	2	0	0	2,030
大室戸	0m	0	1	0	5	210
	2m	0	0	0	0	410
	5m	20	0	1	0	3,590
馬の背	0m	240	2	0	2	3,430
	2m	230	0	0	1	3,190
	5m	120	0	0	1	3,410
白浜	0m	0	0	0	3	80
	2m	0	0	0	0	110
	5m	130	0	0	1	410
勢井	0m	90	0	0	2	310
	2m	120	1	0	4	420
	5m	220	1	0	0	2,520
ガラク	0m	70	0	0	0	190
	2m	210	0	0	0	1,730
	5m	40	0	0	1	490

(cells/ml)

漁業被害が想定される細胞密度

- ヘテロシグマ・アカシオ： 10,000～50,000cells/ml(へい死)
- カレニア・ミキモトイ： 数百～数千cells/ml(へい死)
- シャットネラ属： 10～100cells/ml(へい死)
- ミリオネクターブラ： 10cells/ml(貝類の赤変化)